



廿日市市教委だより

令和2年
11月16日
第7号

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～



11月になり秋が深まってきました。実りの秋、食欲の秋、芸術の秋、読書の秋、スポーツの秋・・・と、秋にまつわる言葉がたくさんあり、四季の中で一番過ごしやすく、美しい季節と言われる秋も、日増しに寒さが加わり、あっという間に冬になりそうです。

忙しい毎日だと思いますが、先生方も風邪を引かないように、体調管理に気を付けてくださいね。



吉和小・中学校



～宇宙航空研究開発機構（JAXA）特別研究員を招いて「宇宙を学ぶ」～



令和2年9月24日(木)吉和小・中学校において、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の特別共同研究員として小惑星探査機「はやぶさ」「はやぶさ2」による調査に携わる近畿大学工学部の道上達広教授を招いた「宇宙に関する出前授業」が行われました。今回の授業は、「将来の進路選択に役立ててもらいたい！」という森岡校長先生の思いが出発点となり、道上教授に依頼して実現しました。

道上教授は、探査した小惑星の名前や現在発見されている小惑星の数などをクイズ形式で出題したり、小惑星の模型を見せながら撮影技術の発達で小惑星の発見が急速に増えていることなどを説明したりと、楽しく分かりやすく宇宙のことについて教えてくださいました。

今回の授業を通して、宇宙に興味を持ち、将来宇宙に関わる職業に就く子どもが出てくるかもしれません。このように、いろいろな機会を通して、キャリア教育の充実を図っていきましょう。

<生徒の感想より>

- ・これまで太陽が一番大きいと思っていたけど、もっと大きい星がたくさんあってびっくりした。「はやぶさ2」が帰ってくる時には、ニュースを見てみたい。
- ・これまで宇宙に関して、興味を持っていなかったが、今回道上先生にいろいろ教えてもらって、「はやぶさ」や宇宙のことなどをもっと知りたいと思った。今回教えてもらったことを、家族や友だちに伝えたい。



近畿大学工学部（惑星科学）
道上 達広 教授

津田小学校(給食室) 吉和学校給食センター がドライシステムになりました！

学校給食では、安全で安心な給食を提供するため、調理から提供・片付けまで、すべての作業を「学校給食衛生管理基準」に則って実施しています。

ドライシステム化は衛生環境を改善するための方法の一つで、水を床に落とさないことにより、細菌の繁殖を抑え、食中毒を防止することを目的としています。最新の設備を導入し、これまで以上に衛生管理のしやすい施設になりました。

これで、市内すべての学校給食施設のドライシステム改修の完了です！



津田小学校 給食室



吉和学校給食センター

給食調理員一同、新しい施設での給食作りを心待ちにしていました。これからも、地元の新鮮な食材をたくさん使った、**自慢の給食**作り、がんばります。「美味しかったよ～！」と声をかけてもらうことが喜びであり、やりがいです。



スポットライト!

~この人に注目~

◆廿日市中学校で6年目をむかえ、今年度は廿日市市中学校体育連盟バスケットボール専門委員長を務める演田先生に、今回お話を伺いました。



廿日市中学校
3年2組担任
女子バスケットボール部顧問
演田真司 先生

Q1 バスケットボール専門委員会の強みを教えてください。

各校の先生方は、総務、競技、TO、審判、会場運営、式典放送、受付接待、報道記録、財務の各部に分かれており、特に各部のトップの先生方との密な連携と協力体制が一番の強みです。

また、各部の先生方が役割を自覚し、生徒の安全を第一に考え、責任をもって情報収集、情報交換、調整、準備をして下さるので、毎回円滑な大会運営となっています。

Q2 今年度、大会運営にあたり、コロナウイルス感染症拡大防止対策としての取組や配慮した点を教えてください。

県中体連、バスケットボール協会、他市町の情報を参考に、各部トップ会議での協議を経て、感染症防止対策に取り組みました。特に体調管理、会場使用、観戦方法、大会運営に関わる確認事項についてはチーム、選手、保護者へ周知、徹底しました。大会当日も生徒にとって最高の大会となるよう、全ての先生が緊張感をもって臨んでくれました。

Q3 最後に廿日市中学校の強みと教師としてのモットーをそれぞれ一言をお願いします。

「生徒に寄り添う学校体制」「根拠をもった指導」

演田先生のお話から、バスケットボール専門委員会の一体感とリーダーとしての情熱、生徒への愛情を感じました！そんな素敵な演田先生に注目です！

「つなプロ」は「日々の学校生活」から

「つながり支援プロジェクト」の徹底を図るためには、学校生活のあらゆる場面に『自己有用感を育む』という視点で工夫・改善することが必要です。



今回は、佐方小学校の学校生活の一コマから、「つなプロ」の実践を紹介します。

授業中、子どもがみんなの前で、またはグループやペアで自分の考えを発表する場面がありますが、これも立派な「つなプロ」の実践です。一時間の授業の中で、自分の考えを相手に伝えたり、友達の考えを聞いたりする等、お互いの考えを認

つながれ! 広がれ! 「宝の山」

め合う活動を通して、安心できる教室の雰囲気の中で、「自分はまわりの友達から認められている(承認)・役に立っている(貢献)」という『自己有用感』を高めます。ここで大切なことは、『自己有用感を育む』という視点を教師が持っているかどうかということです。「〇〇さんの考えのおかげでみんなの考えが深まりましたね。」と子どもの考えをみんなの前で認めたり、「〇〇さんの考えのよさ(違い)は、どこですか?」とまわりから友達の考えのよさや違いを発表させることで、考えを発表した子どもを認めたりする等、教師が発する一つ一つの言葉で児童生徒の自己有用感が高まります。



このように、日々の学校生活の中に、「人との関わりを意図的に仕組む」ことで、お互いを認め合う活動を通して、子どもたちは学校から『自己有用感』という満足感をおみやげに家に帰ります。

「つなプロ」は、皆さんもご存知のように特別なものではありません。毎日の学校生活の、毎時間の学習の中に、自己有用感を育む場面はたくさんあります。そのチャンスを逃さず、どんどん生かしていきましょう。

特別支援教育の視点に基づいた学習指導と生徒指導

これまで、ユニバーサルデザイン3つの視点の内、「焦点化」「視覚化」について紹介してきました。今回は3つ目の「共有化」についてお伝えします。

共有化：話し合い活動を組織化すること

例えば…

☆学習形態の工夫☆

→ペアやグループによる話し合い活動では、積極的に意見を述べやすい。言語化することで思考を整理し、共有化することで学習を深めることができる。



何について話し合うのか、何のために話し合うのかを明確にし、児童生徒にも示すことが大切です!

☆振り返りでの言語化☆

→めあてに対する振り返りを発言させることで、学習したことが明確になりやすい。



日々の授業で先生方が何気なく取り組まれていることが「焦点化・視覚化・共有化」のいずれかに当てはまっていると思います。これらを意図をもって取り組めば、さらに効果的な支援になると思います!

ICT活用への道

G Suite for Education の ID とパスワードについて

11月の初めに Google についてのオンライン研修を開催したところですが、Google のアプリケーションを利用しようと思うと、必要になってくるのがIDとパスワードです。今回は、児童生徒に配付しているIDとパスワードについての内容です。数字の組み合わせで、児童生徒を登録しています。市内で転出入があっても新しいIDを発行することになります。転出した学校のIDは削除します。パスワードは、セキュリティの安全面を考えて設定しています。なお、児童生徒に発行している ID とパスワードは、**児童生徒自身に付与**しています。保護者が主体で使うことがないよう、留意してください。現在は、学校内での活用になりますので、ID の個票は、今しばらく学校で保管してください。

今回は、「間違えて作ってしまったクラスルームの消し方」です。



★ログインに必要なので、個票はなくさないようにしましょう。

★登録した年度で連番になっているので、次年度からはクラス単位で連番ではありません。

